

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1991100098		
法人名	社会福祉法人 芳寿会		
事業所名	グループホーム 真心の里		
所在地	山梨県都留市中央1-1-16番地		
自己評価作成日	平成27年8月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成28年9月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年の6月にオープンした都留市の谷村の中央に位置している施設です。近くに商店街、学校、市役所など地域に溶け込んだ施設を目指しています。小学校の運動会、地域のお祭りなども参加しており地域密着型の施設運営を目指しています。
利用者様一人一人が自分らしい生活が送れるように支援しています。利用者様が出来ることは自分で行ってもらい自立支援のケアをおこなっております。気軽に馴染の商店街や小学校などに買い物や散歩等に出かけて地域との交流を深めています。
併設している特別養護老人ホームの看護師、往診医、及び関係医療機関と連携し利用者様の医療的サポートをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は設立1年3か月の新しい施設で小学校が隣接し、市役所、公共施設等が近隣にある商店街の中にある。1階にグループホーム、2、3階は地域密着型小規模特別養護老人ホームが併設されている。法人関係の医療機関や特別養護老人ホーム等との連携が密に行われており、利用者や家族に対してもきめ細やかな相談や意向に沿ったサービスを提供している。また、利用者は地域の方が多く、馴染の関係ができています。利用者のケアにあたっては自立した生活の支援に重点を置き、職員が寄り添いながら自主性を尊重している。地域のお祭りや小学校の行事等に参加している。法人の施設間との交流も工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム 真心の里

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本法人の基本理念を玄関など見やすい場所に掲示して誰でも見やすいようにしてあります。 職員同士のミーティングの際に基本理念について周知徹底しています。	玄関正面の見やすい位置に、基本理念や方針が他の必要書類と一緒に掲示しており、家族等の来訪者や職員への周知をしている。また、ミーティング時に基本理念の共有を行って実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域のお祭り、小学校などの運動会に参加しています。 ・近くの商店街などでなじみの店などで買い物して交流を深めています。 ・2階の地域交流室で地域のボランティア、生き生きサロンなどを開催し地域交流しています。	商店街に立地しているため、日々の買物や近所の馴染みの人との交流を日常的に行っている。隣接している小学校の行事への参加や交流をしながら施設の存在が周知されている。また、施設の交流室を開放し、生き生きサロンを市との連携のもとで開き、地域に貢献している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・施設の行事の際には、地域の皆様に施設に来てもらい、認知症について意見交換しています。 ・今後はこの町の福祉拠点として位置つけていきたいです。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		運営推進会議を10月に開催予定で現在準備を進めている。連携を必要とする利用者、家族、市担当者、包括支援センター、民生委員、施設長、室長、管理者等の出席を予定している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・市の担当者とは常に情報交換連携を密にとり、報告や指導を受けています。	市担当者と連携し、利用者に対する相談や利用の検討等、必要なケアの情報の共有をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 管理者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束については、禁止となる事項を正しく理解し、身体拘束しないケアに取り組んでいます。また、日々のケアにも職員同士が身体拘束につながらないように意見交換しています。	日常のケアの中で、職員に対して身体拘束・虐待防止についての理解を周知し、適宜、管理者の指導も行っている。玄関や居室の施錠は行っていない。職員間で、利用者に対する身体拘束をしないケアに向けて取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待については管理者、職員が話し合いなどを通じ、虐待に関する知識、認識を深め虐待防止に取り組んでいます。 ・職員間でも虐待について気が付いた事を話し合い意見交換しています。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・成年後見制度については職員が県、市町村が開催する研修に参加したり、市町村の担当者等と必要時に相談、報告、連絡し情報共有しています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約の際は、自宅訪問もしくは施設にきてもらい、契約の締結、解約の説明、重要事項の説明をし同意を得ています。 ・本人、家族に不安、疑問等がある場合には納得いくまで話し合いを続け、理解を得ています。			

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム 真心の里

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご家族来所時にサービスの内容、様子などを話をしています。その際に、意見やご指摘などをくみ上げるようにしています。 ・利用者、家族の方のご意見、不満が聞けるようにご意見箱を設置しています。	利用者、家族に対してアンケートにより意見・意向を伺い、運営上、改善すべきことや要望について参考にしている。また、玄関フロアに意見箱を設置し、タイムリーな意見を受けながら、施設運営の参考にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・年2回全スタッフに対してアンケートを取り管理者との面接をおこなっている。管理者との面談は個々に必要に応じて随時行っています。 ・毎月法人全体で代表者会議を開催し、職員の意見を反映しています。	スキルアップのための職員アンケートにより、要望を受け、法人内での勤務先を異動することもある。必要時は面接も行い希望を聞くこともある。また、法人の管理者等の代表者会議を実施し、法人内での情報の共有を行い職員の意見を周知、反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・年2回の理事長面接の実施で努力や実績の評価や業務への要望の聞き取り等を行っています。また、法人全体で勉強会や行事等を開催し向上心を失わないよう明るく働けるように努めています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修の参加。特に認知症研修 ・資格試験などの習得を奨励しています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・研修のときなど他施設職員と積極的に交流し意見交換を行っています。 ・他施設の訪問の受け入れや訪問したりして意見交換を進めていきたいです。			
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・利用申し込み時は本人、ご家族と来所してもらうようにしています。入居前には必ず本人が見学してもらうよう支援しています。来所時はケアマネが本人の意向、家族の思いなどを聞き取りしています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・見学の際に利用に向けての不安や相談をうけています。ご家族との対話を大切にし、信頼関係の構築を目指しています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居前のインテークで本人やご家族の意見を聞き取り、グループホームの特徴を理解してもらったうえで必要とするサービスを見極めていきます。その際には利用者にあったさまざまなサービスも提案しています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者、職員が「共に生活する」という考え方でできないことをスタッフが手伝いながら家事中心にケアさせてもらっています。			

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム 真心の里

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・利用者を中心に家族、職員が密に情報共有しています。また、家族との絆が深まるよう外出、外泊を積極的に支援しています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・都留市にある馴染の商店街に買い物にでかけたり、馴染の理容店などを利用しています。	施設が商店街に立地し、利用者も地元の方が多く、買物に外出する際には知人と交流出来る場が頻回にある。以前から利用している理美容に通ったり、来所してもらっている利用者もいる。また、家族や近隣の方が面会やお茶を飲みに来る時もある。近隣との馴染の交流は多くみられ馴染みの関係ができています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の尊厳、個々の性格などを考慮しながら利用者同士の関わり合いを支援しています。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・サービス終了時は同法人内の特養入所が考えられるので常時、情報共有、連絡、相談を行っています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人の思いや生活の仕方などを把握し、家族に伝え話し合いをおこなっています。把握が困難な場合には利用者の立場に立って職員同士が話し合いを行っています。	利用者の心身の状態や本人の訴えを細かく把握して、気持ちを受け止めるようにしている。訴えの出来ない利用者には表情、態度、声の調子から職員が把握して、また家族にも意向を伺ったりして共有し対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・家族の情報または本人の何気ない会話からどのような生活をしてきたかを把握しています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一人ひとりの日々の過ごし方、心身の状態等を観察し、その都度記録しています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・職員同士のミーティング等で意見、アイデアを出してもらいそれを介護計画に反映し作成しています。	管理者を中心にミーティングを行い、職員間で情報を共有し介護計画を作成している。また、介護者の日々の記録や気づき、介護内容の提案等も行い、モニタリングを実施し、利用者に対する介護の質の向上も検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の生活の様子は介護記録に記入しています。その情報をもとに、職員同士が情報共有、意見交換し介護計画を見直しています。			

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム 真心の里

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ご本人、家族の希望を取り入れ、その状況に応じて対応しています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・商店街のなじみの店などに歩いて買い物に出かけたり、近所のファミレスなどに食事に出かけたりしています。 ・地域のボランティアに来てもらい楽しんでもらっています。(和太鼓、手品など)			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人と家族の意向に沿うようにかかりつけ医、専門医と連携をとりながら支援しています。 ・家族、本人の意向により現状は専門の往診医(内科医師)が主治医になっています。	施設の嘱託医や、利用者に必要とされる、かかりつけ医との連携が行われている。かかりつけ医への対応は家族対応が基本で受診結果は必ず情報として受けとめ共有している。関係者と病気に対する状態把握と共有もでき、適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・日々、併設の特養の看護師とその都度連携をし適切な看護、医療が受けられるよう支援しています。 ・往診医とも情報を共有して医療的な支援をしています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・医療機関に情報提供を行い、病院関係機関や家族とともに経過を確認しています。また、事業所の往診医、各医療機関とも連携を取り、情報共有、関係作りを行っています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化した場合、終末期のあり方について入所時に事業所としての方針を説明しています。また、家族の考え方についてもその都度確認しています。 ・本人、家族、往診医、事業所と早い段階から方針を共有して病院転院や法人内での特養転居など支援しています。	家族に対して入居の際、終末期に対する対応の在り方を説明している。家族の意向を伺い、状態が悪化した時の医療機関との連携や看取りの方針も伝えている。入居時、状態に応じて、法人内の特養への入所利用が出来る事を伝えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・利用者の急変や事故発生時の備えて、職員が応急処置や救急対応ができるように話し合い対応しています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協働体制を築いている	・利用者が安全に避難できる方法を職員が身につける共に、地域の協働体制がとれるよう日頃から地域との関係作りを行っています。 ・併設の特養とも合同で避難訓練を行っています。	年1回、災害時や火災発生時の避難訓練を消防署の協力で特養と共同訓練を行っている。特養の職員に地域の消防団員が数名おり、救助方法についても訓練している。月1回は非常口からの避難方法を確認している。	夜間を一人で救助することが想定される。火災報知器や消火器のある場所、使用方法について訓練する必要がある。消火方法、救助方法を体得することを早急に実施し、記録に残し防災に対する意識を持つことを期待する。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・利用者一人一人の生活歴など理解し、利用者が誇りやプライバシーを損ねないような言葉使いをしています。	利用者が年上であり、生活歴等をふまえながら、尊重した言葉かけを心掛けるようにしている。支援に関してはリーダーを中心に職員間で話し合い、適切な言葉かけで誇りやプライバシーを損ねないよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム 真心の里

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な場面で、ご本人の意思決定ができるような言葉がけをいこなっています。ご本人の意思を尊重しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位の日々の暮らしを実践しています。利用者がしたい事、出来ることを職員同士が意見交換して日々の暮らしを送っています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人がおしゃれを楽しめるように支援しています。衣服等は家族に協力してもらい馴染の衣服、おしゃれな衣服を用意して頂いています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・ミニ菜園で収穫した野菜、家族が持ってきてくれる野菜等、季節に応じた食材など利用しています。献立等はその日に利用者が食べたいもの提供しています。 ・後方付け、食事の準備などは利用者が率先して手伝ってくれます。	菜園で収穫した野菜を食材にしている。利用者が楽しめて、また、季節感が感じられる食事を提供するように工夫している。利用者により好みを聞いたり、食べたい物を取り入れるようにしている。準備や後片付けは出来るだけ声をかけて多くの利用者が出来るように励んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・利用者ひとり一人に応じた食事量を調整しています。利用者の体調に応じて粥食など食事の形態を変えています。 ・記録を通じ一日の摂取量を把握しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・食事後の口腔ケアを行っています。職員が声掛け、確認などを歯磨き後行っています。 ・町の協力歯科医院に往診してもらっています。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・ほぼ自立の利用者が多いが失敗がある利用者には排泄パターンを把握し誘導を行っています。	排泄は概ね自立している。中には失禁がみられる利用者で、衣類の交換を必要とする方がいるが、各部屋にトイレが設置されているので、声かけや定期誘導により自立に向けた工夫をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・定期的に排便できるよう適度な運動、食事、水分摂取でコントロールしています。 ・ひどい便秘には看護師、往診医に相談し下剤を処方してもらっています。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴は週2回と固定しているものの、本人の希望であればできるだけ入浴してもらっています。	週2回の入浴を基本としているが、希望により回数や曜日、時間を利用者に合わせて実施している。また、入浴方法についても利用者の心身の状態を把握して適宜に変更しながら行っている。入浴困難な利用者には2名の職員で支援している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム 真心の里

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣にあわせて、本人のリズムで静養してもらっている。特に消灯時間は決めておらず本人のペースに合わせています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・確実に内服できるように職員全員が薬の目的などを理解して介助しています。 ・変化が見られた際には主治医に連絡し、対応しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・日々の季節行事やボランティアなどを活用して楽しみごと支援しています。 ・日々の生活に張り合いがあるよう家事手伝いやウエス作りの作業などを行っています。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・場所的にならげなく外を散歩できる環境なので希望により散歩などを行い小学校、商店街等に行きつて馴染みの人達に会ったり、馴染みの場所などに行っています。	地域性として、近隣や地域住民とコミュニケーションがとり易く、職員と共に外出している。食材の買物に職員と同行している利用者もいる。外出時に馴染みの人と会うこともあり交流できる時がある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・買い物は各個人の能力に合わせて支払いをお願いすることがあります。金銭の管理は管理者が行っています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・気軽に電話できるように支援しています。手紙のやり取りも自由です。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節感に応じた作品を利用者と一緒で作成し飾っています。本人が快適に生活できるような音楽も流すこともあります。	玄関はセンサーの設置で、利用者の外出の見守りがされている。台所とフロアは対面式で調理の様子を伺うことができたり、音、匂いを感じる事が出来る。利用者が配膳・下膳等参加がし易い。フロアには利用者と職員が一緒に作成した季節の造花が展示、利用者が書いた習字が貼られて、寛げる雰囲気になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは気の合う人同士でゆったり暮らせるように支援しています。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・自宅で生活しているように暮らせるよう本人にあった家具、馴染みの物を持ってきてもらい、自分らしい居室にしています。	居室には、利用者が自宅から持参した馴染みの家具やテレビ、冷蔵庫が置かれている。家族の写真が壁に貼ってあり自室感が醸し出されている。トイレと洗面所スペースの仕切りが明るい色彩のカーテンで仕切られて、出入りがしやすく工夫されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・建物内部ではフローア、居室内では全面バリアフリーです。利用者の導線には手すりを設置しています。			